

4月24日開催の「日本関東軍による棄兵・棄民政策」学習講演会

120名の参加で成功裡に終わりました

大阪市をはじめ、大阪府下各地、兵庫、京都、奈良、遠くは札幌市からも、120名



の方が参加され、「過去の克服」・「加害と被害」を考える学習講演会を成功裡に終わることができました。感想文・アンケートは37通の提出がありました。

日本の哈達河開拓団が避難中にソ連軍と満州国軍反乱兵によって攻撃されて集団自決を強要され、生き残ったのは7人の幼い子どもだけという悲惨な「麻山事件」の生存者として証言した黒川猛夫さんの話には、「6歳の少年のあの悲しくつらい記憶をよく話してくださいました」「聞かせていただき自分自身に大事なことをいただきました。伝えていくことの大事さをあらためて感じました」などの感想が寄せられました。



黒澤弁護士の講演には、「シベリア抑留は一方的にソ連だけが引き起こしたとはいえないという指摘は印象深かった」「シベリア抑留が政治家、軍人の無責任な独断で始まり、戦後また政治家が無責任にソ連に対応した問題だと感じた」「シベリア抑留の原因がよく理解できました」「『忘れないこと』の大事さを学びました」「今まで知らなかったことをいっぱい教えてもらいました」等の感想がありました。

寄せられた質問の取り扱いにつきましては、8/21 開催予定の定例研究会までに黒川猛夫さんへの聞き取り、黒澤弁護士への照会なども行い、呼びかけ団体が責任を持って、ホームページ等を通じてかえしていきます。

